

## 第8回 日本安全運転医療学会学術集会報告

武原 格\*

### Report: 8<sup>th</sup> meeting of the Japanese Society of Safe Driving and Medical Conditions

Itaru Takehara \*

\*東京都リハビリテーション病院 リハビリテーション科

[〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1]

\*Dept. of Rehabilitation Medicine, Tokyo Metropolitan Rehabilitation Hospital

私が大会長として、第8回日本安全運転医療学会学術集会を2024年12月15日（日）に一橋講堂にて開催しました。参加者は、320人以上であり、関係者等含めると400人以上の方が参加され、大変盛況でした。

本学術集会のテーマは、「外出を支えるまちづくり～安全な運転再開と移動手段の確保～」としました。安全な交通社会の実現は、医療関係者のみで実現できるものではなく、自動車教習所や、自動車メーカー、自動車改造メーカー、工学系技術者など多くの方との連携・協力が必須です。医療分野では、医療関係者同士をつなぐ多職種連携が重要視されていますが、本学会の活動は、さらに多くの職種の方々の「社会横断的多職種連携」の場であると言えます。

これまでなんらかの疾病を患っている方や、障害をもっている方が、どのようにすれば安全に交通社会に復帰できるかという点について、学術的見地から研究・発表がなされてきました。脳損傷者の運転再開については、一定の成果が得られていると思われませんが、今後も研究や啓発活動が必要な状況です。その他の疾病についても、同様に研究や啓発活動が必要です。また、近年、特に注目されている高齢者の運転に関しても法制度の変更に合わせて、その支援を柔軟に行うことが求められます。

しかし、その一方で残念ながら様々な理由から運転を継続することが困難になってしまう方も少なくありません。運転を断念された方々の買い物など生活を維持するための交通手段をどのように確保するのか、あるいは運転を継続できなくなることで社会的に孤立してしまうのをどのようにし

たら防げるのかなどが喫緊の課題として浮上してきました。運転をやめることに伴う社会的孤立は、認知機能や身体機能に悪影響を及ぼすため、本学会が取り組むべき新たな課題と考えました。そのため、本学会の活動の軸である疾病や障害をもった方々への「安全運転再開支援」と、運転再開や運転継続が困難となった障害者および高齢者の「移動支援」の両面から知見を深められるように学術集会のプログラムを作成しました。

大会長講演として私が、「脳損傷者の運転再開支援に携わってきて」と題し、2007年より脳損傷者の自動車運転再開支援に関わってきた経験や、障害者自動車運転研究会の発足、2017年の合同研究会の開催、2022年の学会発足に至る経緯について講演しました（図1）。そして、本学会の発展のためには、①臨床・研究のすそ野を広げること、②社会横断的多職種連携を確立すること、③診療報酬算定を目指すこと、④移動支援全体を考えることが必要だと提案しました。



図1：大会長講演

特別講演では、第一交通産業株式会社交通事業統括本部の栗原教臣先生から、「地域の移動を守り続ける「ファーストワンマイル・ラストワンマイル」の取り組みについて」ご講演頂きました。第一交通の取り組みとして、①乗合タクシー・おでかけ交通の取り組みについて、②医療・介護の場面での連携について、③交通弱者に対するサービスの拡大について具体的な活動内容についてお話し頂き、外出を支える多角的移動手段について説明がありました。

教育講演1は東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座教授の渡邊修先生より「自動車運転と脳機能解剖」について、教育講演2は東京慈恵会医科大学臨床検査医学特任講師の海渡信義先生より「てんかんと運転」について、教育講演3ははやし脳神経外科クリニックの脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の日下部桐子先生より「認定看護師がおこなう運転支援」について、ご講演いただきました。

シンポジウム1はテーマ「人とまちを支える多様な移動支援」を掲げ、なごや高次脳機能障害支援センターの吉原理美先生より「脳損傷後の地域移動支援：運転中断と Well-being」について、農協共済中伊豆リハビリテーションセンターの那須識徳先生より「地域生活支援の視点から考える、医療機関における自動車運転再開支援と運転中断支援」について、森ノ宮医療大学の鍵野将平先生より「移動の自由と安全を守るために：高齢者と共に考える和歌山県での取り組み」について、株式会社ジョシュの永島匡先生より「地域住民で支え合う外出と交通とまちづくり～東京都での取り組みを通して～」について、4人のシンポジストの先生方にご講演いただき、フロアとの活発な討議が行われました。

シンポジウム2はテーマ「安全な交通社会実現への多角的アプローチ」を掲げ、東京都リハビリテーション病院の安西敦子先生より「脳損傷者の交通事故報告について」、東京都医師会の吉本一哉先生より「高齢者の交通事故減少のための道路環境の対策」、コヤマドライビングスクール二子玉川の森早穂先生より「安全な交通社会と教習所教育」、イタルダ交通事故総合分析センター研究部主幹総合交通心理士の小菅英恵先生より「安全運転継続の対策強化と支援の仕組み化：事故予防と運転者対策のあり方」についてご講演いただき

ました。本来でしたら、科学警察研究所交通科学部第二研究室の後藤瑠衣先生から「安全な交通社会実現への取り組み」についてもご講演頂く予定でしたが当日体調不良のため御欠席となり残念でした。

ワークショップを「臨床現場でのドライビングシミュレーターの活用と意思決定」をテーマに「評価編」と「介入編」の2つに分け各々1時間行う濃厚な内容でした。ランチョンセミナーは東京工科大学医療保健学部リハビリテーション学科作業療法専攻教授の澤田辰徳先生より「ドライビングシミュレーター活用の基礎」についてご講演いただきました。

今回の企業展示は、体験を重視した内容となっており、VRやMRの機器を3台、ドライビングシミュレーター5台などが展示され、多くの参加者が実際に装着や操縦をしていました。

多くの一般演題の口述発表やポスター発表があり、多くの方が参加され、活発な討議が行われました。

本学術集会では、理事・評議員の先生方をはじめ、多くの会員の方々、賛助会員の方々など多くの先生方のご協力のおかげで無事開催することができました。また、準備段階から当日まで東京都リハビリテーション病院のスタッフの方々には多くの手助けをしていただき、感謝しかございません。皆様に謝意の意を述べさせていただき、報告を終了させていただきます。